

令和3年度第1回 感染症発生動向調査部会  
議事要旨

1 日 時 令和3年4月21日(水) 14:00～

2 場 所 岐阜大学医学部本館 1階 応接室(岐阜市柳戸1-1)

3 出席者

委 員 : 馬場 尚志(岐阜大学医学部附属病院 生体支援センター センター長)  
大西 秀典(岐阜大学大学院医学系研究科 小児病態学 教授)  
澤田 明(岐阜大学医学部附属病院 眼科 臨床准教授)  
加藤 達雄(国立病院機構長良医療センター 呼吸器内科統括診療部長)  
石山 俊次(石山泌尿器科皮膚科)  
オブザーバー: 小山 静代(岐阜市保健所 感染症対策課 感染症対策係長)  
事務局 : 石塚 敏幸(感染症対策推進課 感染症対策第二係長)  
山田 涼子(感染症対策推進課 技師)  
今尾 幸穂(保健環境研究所 疫学情報部長)  
岡 隆史(保健環境研究所 主任専門研究員)

4 議 題 (進行:加藤委員)

- (1) 前月の感染症発生動向について
- (2) 検討すべき課題について
- (3) 情報提供(月番委員専門分野から)
- (4) その他

5 議事要旨

【前月の感染症発生動向について】

- ・事務局からの説明は資料のとおり。
- ・月番委員のコメントについては資料のとおり。

【検討すべき課題について】

〈事務局から〉

○インフルエンザについて

・2020/21シーズンにインフルエンザの流行がみられなかったことについて、感染症発生動向調査で得られたデータを「感染症かわら版」として県民へ情報提供を行いたい。効果的に情報を提供するために、その内容のまとめ方についてご意見をいただきたい。

(委員からの意見)

・ただ流行がなかったことを伝えるだけでなく、そのことによって何を啓発したいかを明確にすることが重要だと思う。例えば流行がなかったのは新型コロナウイルスへの感染予防対策の効果とするなら、そのことをもっと前面に出し、予防対策の重要性を強調することが良いと思う。

・より読者が具体的にイメージできるよう、例年どれだけの患者がインフルエンザで死亡しているかを具体的に書いた方が良いと思う。

#### ○RS ウイルス感染症について

・岐阜県ではまだその兆候がみられないが、RS ウイルス感染症の報告数が全国各地で増加している。地図上で色分けしたところ、九州及び東北地方で感染が拡大しており、その波が本州中央部にも広がるのが考えられるので、県民に対して同感染症への注意を促したい。そのため効果的に情報が伝えられるよう、ご意見をいただきたい。

(委員からの意見)

・注意すべき点を明確にすることが重要であると思う。RS ウイルス感染症の場合、成人にとっては感冒程度であっても、新生児などが罹患すると重症化リスクがあるため、「少しでも体調不良があれば、幼少児などへの不用意な接触は避けた方が良い」ということを伝えることが重要と思う。注意喚起のために、例えば新型コロナウイルスとの相違点という視点から記述することも考えられる。新型コロナウイルス感染症は一般に高齢者の重症化リスクが高いとされているが、RS ウイルス感染症はその逆で小児の重症化リスクが高く、不用意な接触は控えるよう書いた方が良いのではないか。

#### 【情報提供（月番委員専門分野から）】

(加藤委員)

・肺炎球菌ワクチン接種に関する書籍の紹介

(石山委員)

・近年の梅毒の発生動向について

#### 【その他（感染症対策推進課から）】

・予防接種に関する情報提供